

地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを認定する「NIPPON防災資産」が令和6年5月に創設されました。

近畿地方では、令和6年度に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」、「和歌山県土砂災害啓発センター」、「稲むらの火の館」が「優良認定」、「福知山市治水記念館」が「認定」とされています。さらに令和7年度には「津波・高潮ステーション」も「優良認定」とされました。いくつかご紹介します。

1. 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター（神戸市）

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災とその教訓を伝えるため、2002年4月に国と兵庫県により設置されました。震災後に被災者などから集められた約25万点の震災資料が保存され、展示や研究に使われています。自ら被災された「語り部」の皆さんがボランティアとして体験を語っておられ、コロナ禍前には年間50万人以上の来訪者があつたそうです。多くの現物資料が震災の記憶として展示されており圧倒される気がいたしました。



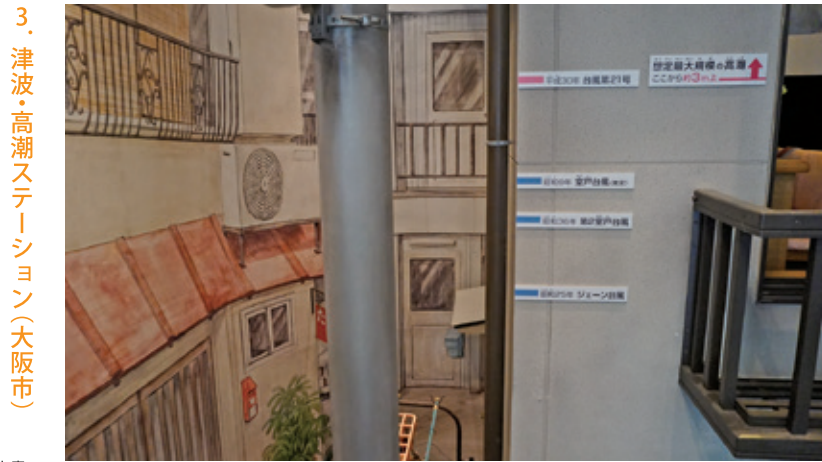
6階の印は高知県黒潮町の津波高34.4m（人と防災未来センター）

2. 稲むらの火の館（和歌山県広川町）

「稲むらの火の館」は、濱口悟陵記念館と津波防災教育センターからなっています。安政元年（1854）に広村（現広川町）を襲った津波を目のあたりにした濱口悟陵は、私財を投じて高さ5m、延長600mの堤防を完成させます。濱口悟陵をモデルにした小泉八雲の「A Living God」は「稲むらの火」と訳され、昭和22年まで国語教科書に掲載されました。近くの広村堤防前では毎年、安政大津波で亡くなった人々の霊を慰め、広村堤防を築いた濱口悟陵らの偉業を偲んで「津浪祭」が行われているそうです。



「稲むらの火の館」入口と濱口悟陵翁の像



2階に達する高潮水位を表示した実物大ジオラマ（津波・高潮ステーション）

【参考資料】 阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター 令和6年度 年次報告書 稲むらの火の館HP 津波・高潮ステーション（大阪府HP）

本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。インターネット環境をお持ちの場合は、https://kyokai-kinki.jp/archives/category/public_magazine においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は行っておりませんので、ご了承ください。

編集後記

今号の「水ものがたり」は、熊野川のリバーカウンセラーをされている京都大学防災研究所の竹林特定教授に、「紀伊半島南部豪雨災害から15年」と題し、大規模土砂災害から15年の間に開発された対策技術をいくつかご紹介いただきました。紀伊半島をはじめ各地で繰り返し土砂災害が発生していますが、このような対策技術の進歩で少しでも被害が軽減されることを願ってやみません。

【担当：森川 一郎、益倉 克成、田中 徹、和田 桂子、鈴木 里奈、服部 龍雄、井川 貴史、小柴 梓】



川 THE RIVER

信仰と大規模土砂災害の地を流れる

紀伊半島（熊野）の河川



水が語るもの

水ものがたり

紀伊半島南部豪雨災害から15年

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例

—ヨーロッパ：英国・川と運河を生かしたまちづくり—

水を訪ねて

豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観《後編》

京都の水文化（その15）

平安期からの運河「堀川」～多様な歴史を伝える価値～

水と文学

「此花」、国語・国土の源泉

みんなの水辺

土木遺産「オランダ堰堤」を守り後世に引き継ぐために

うおーたーねっと

水都大阪の歴史と未来（23）

関係者に聞く

流域治水探訪

農業関係の「流域治水」の取り組み

水が語るもの

表紙写真

和歌山県那智勝浦町『那智大滝』



目次

3

水ものがたり

紀伊半島南部豪雨災害から15年

京都大学防災研究所 流域土砂マネジメント研究領域 (RiSM) 特定教授 たけばやし ひろし 竹林 洋史

6

川シリーズ

信仰と大規模土砂災害の地を流れる 紀伊半島(熊野)の河川

10

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 -ヨーロッパ・英国・川と運河を生かしたまちづくり-

工学博士 なかの まさひろ 元大阪産業大学教授 なかの まさひろ 中野 雅弘

12

水を訪ねて

豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観《後編》

(一社) 近畿建設協会 水環境研究部門 顧問 わた けいこ 京都大学 防災研究所 特任教授 わた けいこ 和田 桂子

14

京都の水文化(その15)

平安期からの運河「堀川」 ~多様な歴史を伝える価値~

京都産業大学 現代社会学部 教授 すずき みちひさ 鈴木 康久

18

水と文学

「此花」、国語・国土の源泉

評論家・文化プロデューサー かわうち あつろう 河内 厚郎

22

みんなの水辺

土木遺産「オランダ堰堤」を守り後世に引き継ぐために

オランダ堰堤および周辺の環境を守る会 会長 なるこ くにお 成子 邦夫

24

うおーたーねっと 水都大阪の歴史と未来(23)

水都の会(水都大阪を考える会) 代表 ふじい かおる 藤井 薫

26

流域治水探訪 -関係者に聞く-

農業関係の「流域治水」の取り組み

近畿水管理・国土保全研究会 会員 うめだ かずお 梅田 和男

28

トピックス

NIPPON防災資産“まさか自分が”を減らしていくために



紀伊半島南部豪雨災害から15年

京都大学防災研究所
流域土砂マネジメント
研究領域(RiSM)特定教授

たけばやし ひろし
竹林 洋史



1. はじめに

非常にゆっくりとした速度で北上した台風 Talas(12号)により、紀伊半島南部において2011年9月2日頃から発生した豪雨に伴う河川氾濫および土砂災害は、全国で98人の死者・行方不明者、負傷者113人、床上浸水5,499棟、

床下浸水16,592棟など、大きな被害をもたらした。河川氾濫や土砂災害は、新宮川水系や那智川流域など多くの場所で発生した。さらに、十津川上流域では天然ダムが複数形成され、下流域の住民は長期間の避難生活を強いられることとなった。

水害や土砂災害を研究している大学の研究者にとっても、本災害は大きな驚きをもって受け止められ、このような災害が二度と発生しないよう、さまざまな技術の開発が進められた。発災から15年の間、著者らの研究グループでも、いくつかの水害・土砂災害対策技術を開発した。それらの技術をいくつか紹介する。

2. 土石流の数値シミュレーション技術

2011年9月の災害では、那智川流域で多くの土石流が発生した。土石流から市民の生命と財産を守るためには、土石流災害対策施設の設定や住民の避難などのハード・ソフ

ト対策を検討するために必要な精度で、土石流の流動・氾濫特性を評価することが重要となる。

土石流災害への対策を講じる際に求められる情報としては、土石流の氾濫範囲、流動深、流速、さらには発生する土砂量などが挙げられる。

例えば、土石流の土砂災害警戒区域を設定する際に用いられる氾濫域については、土石流扇状地の上流端付近に位置する土石流堆積開始点を起点とし、そこから扇形に広がる堆積域を仮定する方法が用いられている。また、地盤勾配が緩くなる勾配2度の地点を氾濫域の下端としている。このような簡易的手法が採用されている背景には、対象となる溪流の数が非常に多いことに加え、この方法でも一定の精度で氾濫域の推定が可能であるためである。しかし、実際の土石流は氾濫域内に存在する建築物や道路などの影響を受けるため、より複雑な平面形状

で氾濫・堆積する。さらに、河川を越えて対岸にまで到達して被害を及ぼす土石流もよく見られ、これは勾配2度で定義される警戒区域の下端を超えるケースに相当する。これらの状況を踏まえると、警戒区域内に居住する住民にとっては、より詳細な土石流氾濫域の情報が不可欠である。著者らが開発した無料解析インターフェース iRIC に組み込まれている土石流シミュレーションモデル Morpho2DH(図1参照)では、斜面崩壊の発生から土石流が宅地へ到達するまでの時間に加え、宅地内で氾濫する際の流速や流動深の時空間分布を解析することができる。その結果、各家屋に適した実行可能な避難方法を個別に提示することが可能となる。数値シミュレーションによる土石流解析は、効果的かつ効率的なハード・ソフト両面の土砂災害対策を検討する上で有用な情報を提供するものである。



(上) 図-4 三重県大又川流域の五郷町の被災後の様子

(下) 図-5 迂回流による河床変動特性

Case1 よりも到達土砂量が少ない結果となった。各谷の出口付近に新規に高さ10mの堰堤を設置した(Case3)ではすべての支川で本川まで土石流は流下せず、堰堤設置個所で土砂が停止する結果となった。

以上のような解析を土砂災害対策計画時に実施することにより、効率的・効果的な土砂災害防止のためのハード対策の検討が可能となる。

4. 流水の橋梁への集積による洪水氾濫現象

2011年9月の豪雨時に和歌山県那智川流域の井関地区や三重県大又川流域の五郷町で発生した洪水氾濫は、橋梁への流水の集積により助長されたものである。図-4に五郷町の被災後の様子を示す。橋梁周辺は洪水の氾濫だけでなく河岸や地盤の浸食も発生しており、洪水氾濫対

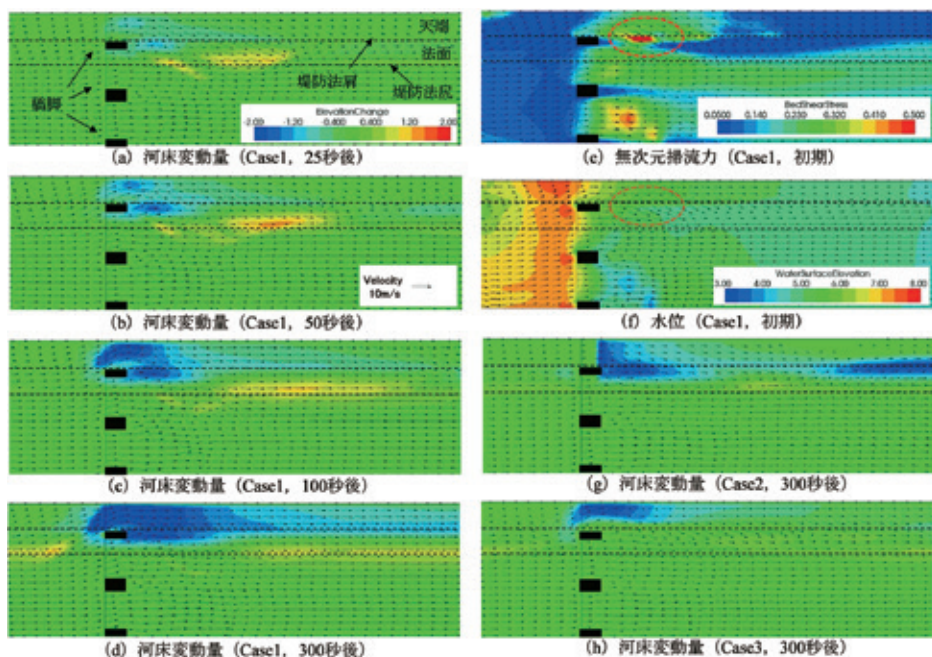
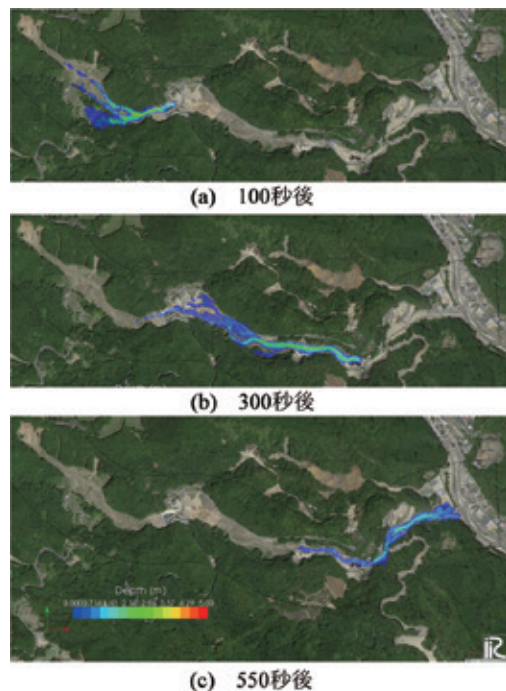


図-2 土石流の流動深の時空間変化



以下に、iRIC-Morpho2DHを用いて2011年9月に那智川流域の金山谷川で発生した土石流の数値シミュレーションを実施して得られた結果を紹介する。

図-2は、土石流の深さの時間変化を示している。土石流は発達しながら、発生から約550秒で那智川に到達している。計算された土石流の平均速度は約4.5m/秒であり、比較的速度が遅い。これは、平均河床勾配が約12度と比較的緩やかであることが一つの理由である。土石流の流速が遅いことを考慮すると、小規模な砂防ダムやワイヤネットを複数設置するような対策でも対応可能であることがわかる。また、発生から下流域に到達するまでに比較的

3. マルチスケール流域土砂動態モデルの開発

Egashira et al. (2007)が開発した流域土砂動態モデルでは、降雨流出、斜面崩壊、河道への土砂供給及び河道での水・土砂の輸送を一体的に解析し、河道に十分な土砂が存在し、流水の掃流力に依じて流れる流砂量を用いて土砂生産量を推定している。一方、土石流などによる流砂量は、流水の掃流力に応じた流砂量とは対応しておらず、両者の間に1オーダー以上の違いがあることも多い。土石流による土砂の生産過程は、土石流によって浸食された河床や河岸の土砂と間隙の水が土石流本体に取り込まれて流下する過程となっており、このような生産過程を考慮しなければ、急勾配河川からの流出土砂量の予測は困難である。そこで、

Egashira et al. (2007)の流域土砂動態モデルと前述の土石流モデルを統合したマルチスケール流域土砂動態モデルを開発した。以下に、解析結果を照会しながら開発したモデルの特徴を示す。

図-3の右下に計算の対象とした那智川流域の単位斜面・単位河道・斜面要素で構成された地形モデルを示す。降雨条件は2011年の台風Talg (12号)通過時の解析雨量を用いた。本解析では、従来のように斜面崩壊で発生した土砂量を河道に供給するのではなく、まず斜面崩壊の判定までの計算を実行し、その結果をiRIC-Morpho2DHに受け渡して土石流の計算を実行する。

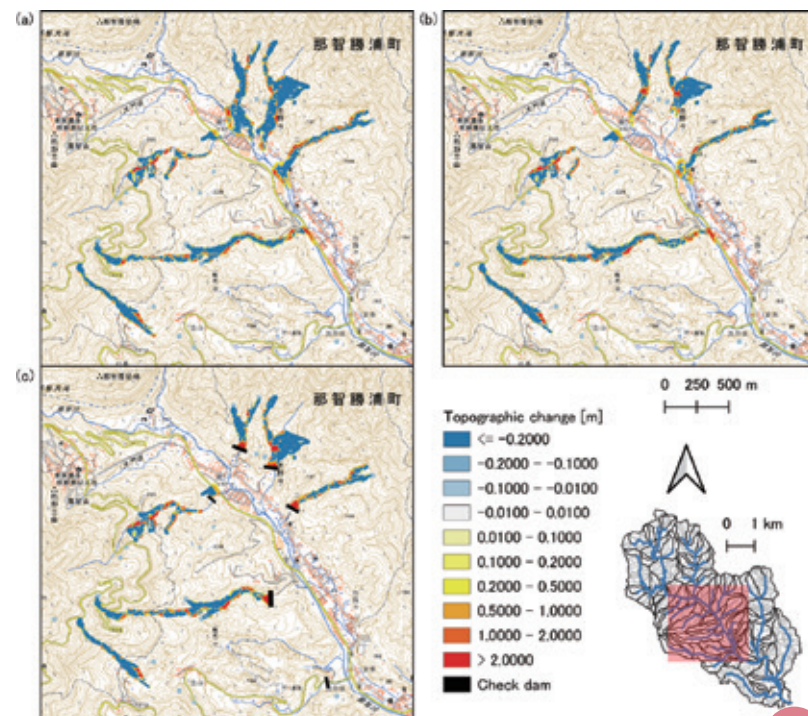


図-3 マルチスケール流域土砂動態モデルによって得られた地形変動量

策や地盤の浸食対策を検討するためには河床変動も考慮した解析による現象の把握が必須であることが分かる。一方、図に示すような場合は、河岸は護岸されており、移動床と舗装や護岸などの固定床が混在した場となっている。そのため、移動床・固定床混在場の河床変動解析モデルを構築し、現象の把握を行うとともに、対策方法の検討を行った。

五郷町の被災地点の物理条件を参考にして解析を実施した。図-5に河床変動量の時間変化(a)～(d)と河床変動開始前の無次元掃流力(e)と水位(f)を示す。水位(f)の平面分布を見ると、橋梁上流側で水位が高くなっており、堰上げが発生していることがわかる。その結果、橋梁上流側から越水し、一部の氾濫水は橋梁下流で河道に戻っている。このような、橋梁を迂回するような氾濫流を迂回流と呼ぶ。無次元掃流力の平面分布(e)を見ると、迂回流は橋梁下流で河道に戻るときに無次元掃流力が大きくなっており、河岸が浸食されやすいことがわかる。(a)～(d)に示すように、河岸および氾濫原の浸食

は、橋梁下流から発生し、徐々に上流に浸食域が広がっていくことがわかる。Case2(g)は橋梁に接続する道路の舗装を考慮した解析である。図に示すように、舗装による固定床が存在すると、浸食域が上流に広がらないことがわかる。アスファルトのような比較的柔らかい材料による表面舗装のみでは浸食を防ぐことはできない可能性はあるが、橋梁周辺のみ舗装の下をコンクリート基礎とすれば浸食の抑制が可能である。Case3(h)は河川に面した河岸をコンクリートで護岸された条件が想定されている。堤防天端が浸食されているが、河岸浸食を抑制することにより、天端の浸食量も大きく減少していることがわかる。

5. おわりに

2011年紀伊半島南部豪雨災害をきっかけに、著者らの研究グループで開発した水害・土砂災害対策技術の一部を紹介した。開発した技術が国内外の水害・土砂災害対策に利用され、より経済的、効果的、合理的な水害・土砂災害対策が実施され、安全・安心な社会が実現することが期待される。



世界遺産 「紀伊山地の 霊場と参詣道」

太古から自然信仰の地であった紀伊半島は、仏教伝来によって真言密教をはじめとする山岳修行の場となり、その後の末法思想の広がりによって、都の南方にあたる紀伊山地には極楽浄土があると信じられるようになりました。このため、「吉野・大峰」「熊野三山」「高野山」といった霊場とそれらを結ぶ参詣道が形成されました。この三つの霊場とそれらを結ぶ参詣道が平成16年に世界遺産に登録されています。



静峡【写真提供：三重フォトギャラリー】

静 峡

静峡は熊野川支川の北山川にあり、奈良県・三重県・和歌山県にまたがる延長31kmにおよぶ国特別名勝の峡谷です。マグマの熱水により硬くなった堆積岩の地層を、巨大な滝が少しずつえぐり、滝つぼを後退させてできたと考えられています。長年、ウォータージェットの観光船が運航されていましたが、平成23年の紀伊半島大水害以降、熊野川・北山川への流入土砂が増加し航路維持が困難となったため残念ながら昨年廃止されました。

北山川 観光 筏下り（北山村）



【写真提供：photolibrary】

北山村は和歌山県に属しながら、周りを奈良県と三重県に囲まれた日本唯一の「飛び地の村」です。林業で栄え北山川流域の木材は伏見城や江戸城にも使われたといわれています。伐採された木材は筏にして新宮まで流していました。ダム建設や道路整備によって約600年続いたといわれる筏流しは途絶えましたが、その伝統や技術は昭和54年に「北山川観光筏下り」として復活しました。丸太を組んだ筏に乗って川下りを体験できるのは北山村だけだそうです。

和歌山県土砂災害啓発センター （那智勝浦町）



和歌山県土砂災害啓発センター

和歌山県土砂災害啓発センターは、平成23年紀伊半島大水害により甚大な被害を受けた那智勝浦町に、和歌山県が土砂災害に関する研究および啓発の拠点となる施設として設置されたものです。令和6年9月に「NIPPON防災資産」に認定されています。また、この建物内には、国土交通省近畿地方整備局の大規模土砂災害対策技術センターがあり、深層崩壊や同時多発的な土石流など、大規模土砂災害に関する調査・研究、対策技術の開発が進められています。

南紀熊野ジオパークセンター （串本町）

本州の最南端、串本町潮岬に南紀熊野ジオパークセンターがあります。紀伊半島の大規模立体模型やプロジェクションマッピングなどで、南紀熊野の大地の成り立ちや自然の不思議を見て、触れて、楽しみながら学ぶことができます。



南紀熊野ジオパークセンター

谷瀬のつり橋（十津川村）



谷瀬のつり橋【写真提供：photolibrary】

十津川村にある「谷瀬のつり橋」は、昭和29年、戦後復興期に谷瀬集落の人々が資金を出して架けた、生活用として日本有数の長さ297mのつり橋です。高さは54mありますが、明治22年大洪水の際には、土砂ダムによる十津川の河道閉塞によって、現在あるつり橋よりも高いところまで湛水したといわれています。その後、湛水量が1.8億㎡にも達した天然ダムが決壊。急激な洪水段波が十津川を流下し、各地に大きな被害を与えました。被災後、十津川村では641戸2667人が北海道に移住して原野を開拓し「新十津川村」となりました。



ぶつぶつ川

ぶつぶつ川（那智勝浦町）

那智勝浦町に、法律で指定された河川としては日本一短い13.5mの「ぶつぶつ川」があります。水源の湧き水は昔から飲み水などに利用され、沸々と湧き出る様子から「ぶつぶつ川」となったそうです。この良好な河川環境を県、町、地元が一体となって保全していくため、平成20年に2級河川に指定され、日本一短い法河川となりました。

熊野本宮大社（田辺市本宮町）

熊野詣の人々が目指した熊野本宮大社は、二千年以上前に大斎原と呼ばれる熊野川の中州に創建されたと伝えられています。明治22年の大洪水により社殿の一部が流出し現在の場所に遷座されました。旧社地の大斎原には日本一の高さといわれる大鳥居が聳えています。熊野本宮大社から新宮市にある熊野速玉大社までの熊野川は「川の参詣道」として世界遺産に登録されています。

熊野本宮大社大斎原の大鳥居

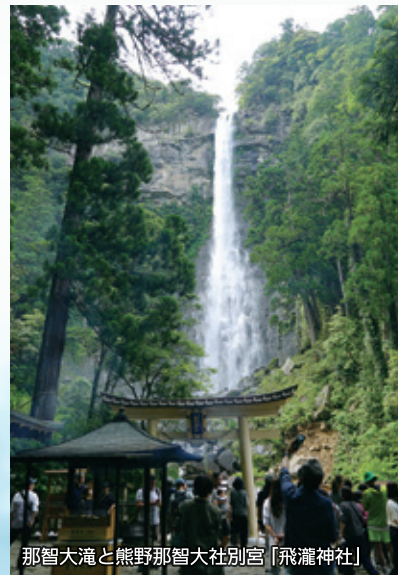


紀伊半島は古くから自然信仰の地でした。南紀熊野ジオパークに見られるような、プレートの沈み込みが生み出した特異な地形や巨石、そして自然が繰り返しもたらす大災害、それらに対する人々の畏怖の念が自然信仰を生み出したように思います。

大規模崩壊や天然ダム災害によって1,500人以上におよぶ犠牲者を出した明治22年（1889）の紀伊半島災害から約120年後、平成23年（2011）9月に、台風12号により紀伊山地で3,000箇所を超える斜面崩壊が発生し、深層崩壊と呼ばれる大規模崩壊も多数発生しました。今年で15年になります。

熊野那智大社（那智勝浦町）

那智大滝は、浸食に強い火成岩と、比較的柔らかい堆積岩の地層との境界に形成された、高さ133m、1段の滝としては日本一の滝です。滝そのものがご神体で、滝の前には熊野那智大社の別宮「飛瀧神社」があります。現在、熊野那智大社の御本殿は那智大滝と少し離れていますが、約1,700年前に遷されるまでは御滝の近くで祀られていたそうです。那智川流域では、平成23年に大規模土石流が発生しました。



那智大滝と熊野那智大社別宮「飛瀧神社」



熊野速玉大社例大祭（御船祭）【写真提供：デジタル楽しみ村】

熊野速玉大社 （新宮市）

熊野速玉大社の例大祭を締めくくる「御船祭」は、ご神体を乗せた神幸船が熊野川の河原にある御旅所へ渡る神事で、9隻の早船が約1.6km上流にある御船島3周を競漕します。1,800年以上も遡ることができ、この地域の長い造船の歴史をルーツに持つとも考えられています。日本の重要無形民俗文化財に指定されています。

紀伊山系砂防

平成23年台風12号（紀伊半島大水害）により、紀伊半島では3,000箇所を超える斜面崩壊が発生し、その土砂量は約1億m³にもおよびました。各地で大規模斜面崩壊による河道閉塞が発生し、那智川では同時多発的な土石流により甚大な被害が発生しました。

これを受け、国土交通省では、緊急的に砂防事業を実施するため、平成24年4月に紀伊山地砂防事務所（現・紀伊山系砂防事務所）を設置し、直轄砂防事業に着手しています。



那智川流域の対策実施状況



令和7年3月に完成した五條市の赤谷地区

対策工事箇所は、奈良県内6地区1流域、和歌山県内1地区3流域におよび、このうち奈良県五條市の清水地区、赤谷地区では既に工事を完了し、奈良県に引き継がれています。

甚大な被害が発生した那智川流域では、緊急対策工事により8支川に計15基の砂防堰堤が完成し、現在、2箇所の遊砂地の工事が進められています。

危険箇所の無人化施工

砂防工事の現場では、急峻な斜面での施工や土砂が再崩壊する危険性もあり、危険箇所の施工を安全に実施するため「遠隔操作」や「自動化施工」の取り組みが進められています。

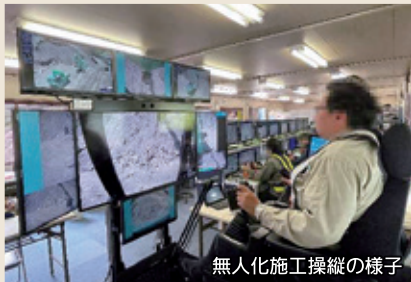


基地から飛び立つ自律飛行 UAV



砂防カード

土砂災害についての出前講座や現場見学会も実施されており、SABOカードも監督官詰所などで配布されているそうです。ご興味のある方は紀伊山系砂防事務所HPからお問い合わせください。

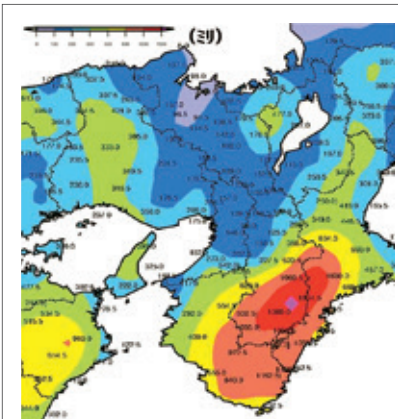


無人化施工操縦の様子

また、台風による出水後など、危険で立ち回れない箇所の巡視・点検を行うため、UAVによる点検・監視の完全自動化を目指して実証実験が行われています。

UAV自律飛行の実証実験

平成23年紀伊半島大水害



期間降水量（和歌山地方気象台）

平成23年台風12号

平成23年の台風12号は、動きが遅く、長時間にわたり台風や台風周辺の非常に湿潤な空気が日本列島に流れ込んだため、降雨が長時間継続しました。特に紀伊半島の総雨量は東南部を中心に1,000mmを超え、一部の地域では2,000mmを超える記録的な大雨となりました。

多発した土砂災害

これにより、熊野川では基準地点相賀で、計画規模（19,000m³/s）を超える24,000m³/sの大洪水となり、濁流は堤防を越え新宮市内に流入しました。洪水痕跡から相賀地点で最大約20mも水位が上昇したことが確認されているそうです。



（旧）熊野大橋を越流する濁流【提供：朝日新聞社】

奈良県・和歌山県では、土砂崩れ（深層崩壊）によって17箇所の河道閉塞が形成され、一部は降雨中に満水となり越流・決壊し、下流集落が土石流に襲われたほか、上流集落にも段波が押し寄せるなど、多大な被害が生じました。そして、河道閉塞によって形成された土砂ダムに決壊のおそれがあるため、緊急対策工事が完了するまで、多くの方々が長期の避難を余儀なくされました。また、那智勝浦町の那智川では、8支川で大規模な土石流が発生し、



那智勝浦町那智川の土砂災害



熊野地区の深層崩壊と河道閉塞

死者26名、行方不明者1名、全壊92棟、大規模半壊89棟等の甚大な被害が発生しています。

紀伊半島の地質と土砂災害

紀伊半島中南部の地質は、中央部の四万十帯（プレートの沈み込みで



近畿地方整備局「災害対応の記録」の図を一部加工

形成された付加体）の堆積岩と、浅い海に堆積した堆積岩、南東部に分布するカルデラ噴火に伴うマグマからできた火成岩（図の赤とピンク）の3つの地質からなっています。著しい変形を受けた付加体では、泥質混在岩や破碎帯等による岩体の面構造が山腹斜面と同じ方向となりやすいといわれています。また那智川流域は火成岩の花崗斑岩が主体であり、柱状節理が発達しやすく、タマネギ状に風化した巨礫による土石流が発生したと考えられています。

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 —ヨーロッパ・英国・川と運河を生かしたまちづくり—

工学博士・元大阪産業大学教授
なかの まさひろ

中野 雅弘



はじめに

今回は再びヨーロッパに戻り、英国のロンドンから西へ列車で一時間ほどにあるテムズ川沿いのレディング市周辺の水辺空間について紹介します。レディング市は、首都ロンドンの観光的名所テムズ川とは違い、景観に配慮した運河が残る風光明媚な地域で、私が半年間滞在したことのある町でもあります。また、「典型的なイングランドの街」と称され、当地の市場調査結果が国内の買物客の動向を象徴するとされており、もともと英国人の素顔の暮らしが見える平均的な都市ともいわれています。



残された運河周辺の賑わい

1. テムズ川沿いのレディング市
ロンドンのバディントン駅から西へ列車で一時間ほどすると、車窓の景色が少しずつ柔らかくなり、煉瓦の住宅と緑の牧草地が交互に現れ始める頃、列車はレディングに着きます。華やかな観光名所ではありませんが、英国の南部では古い歴史と落ち着いた生活を抱えた町としても知られています。このような町の何よりの魅力は、ゆったりと流れるテムズ川の存在にあるようです。

駅前賑わいを抜け、中心部の商店街である歩行者空間を通り抜ける。と産業革命時の英国を支えた昔の運河に出会います。運河を挟んだ両側にはショッピングモールや映画館などの商業施設があり市民たちが憩う様子を見ることが出来ます。

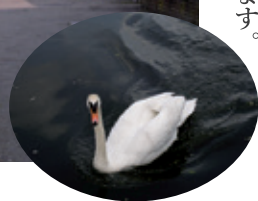
さらにそれらを過ぎてテムズ川の支流の方へ歩いていくと、市街地を離れるにつれて人通りは少なくなり、やがて木々の間から鈍い銀色の水面が見えてきます。ロンドンのテムズ川が都市の大動脈なら、ここレディングのテムズ川は町の裏庭に流れる自然豊かな川で、広すぎず狭すぎず、両岸に草地を従えながら、落ち着いた雰囲気です。

2. レディング市の水辺空間

テムズ川の上流にあたる川沿いには、昔の英国から残るトウパス（Towpath）と呼ばれる曳舟道が伸びています。かつて荷船を馬で曳いた道ですが、今は市民の散歩道であり、自転車道であり、犬を連れた人々の憩いの場所になっています。し、水面に小さな波紋が広がっています。何気ないこれらの風景を見ると、この町では水辺が単なる景観ではなく、身体を動かし、人をつなぎ、季節を感じるための場となっていることがわかります。



運河には白鳥が泳ぐ



3. レディングの水辺から思うこと

我が国の一部の水辺では、年間の降水量の違いもあるでしょうが、護岸は高く固められ、川は安全に管理されているのが通例のようで、どこか人を寄せつけない雰囲気を感じさせます。水は「見るもの」であって、「暮らしの中に入り込むもの」にはなっていない場合が多々あるように

思います。しかし、ここでは人々が川に背を向けず、川の方へ椅子を置き、歩き、語らいながら午後の時間を過ごしています。水辺が町の一部となり、人の気持ちをほぐしているように感じます。

英国の水辺と付き合うと、豪華な再開発ではなく、川を市民の手の届くところに置き、歩ける道をつくり、腰を下ろせる場所を残す。あとは水そのものが人を癒やしてくれる、レディングのテムズは、その単純でありながら大切なことを静かに教えてくれています。

英国テムズ川沿いのレディングの水辺から感じることは、水辺を単なる景観としてではなく、再生の要の一つとして活用していることであり、旧市街地を住宅、遊歩道、カフェ、自転車道へと転換し、人が集う暮らしの空間へと再編しています。また洪水対策としても緑地を確保し、環境と防災を両立させています。水辺を「都市の裏側」ではなく「都市の顔」として位置づけ、市民生活と経済活性化を結び付けている点は、日本の水辺の整備にも少なからずの示唆を与えるように感じました。



運河周辺の落ち着いた雰囲気



運河にはナローボートが航行する



テムズ川岸には水鳥の群れが



ゆっくり航行するナローボート



緑に囲まれた住宅



運河周辺の遊歩道

す。実際このレディング周辺には、手つかずに近いテムズの川岸が何マイルも続いているといわれています。私もその道を歩きましたが、足元の土は柔らかく、ところどころに咲く黄色い野花が風に揺れて、水辺には白鳥が群れ、カモが岸をつついていました。また、対岸には低層の一般住宅が並び、庭先から小さな

ボートが川へ突き出している様子も見ることができました。驚かされるのは、人々がこの水辺を特別扱いしていないことです。ジョギングをする若者、ベンチで本を読む婦人、芝生に寝転ぶ親子。誰もが肩の力を抜いて川のそばにいます。観光客向けの演出も大げさな施設もない。ただ水があり、歩ける道

があり、腰を下ろせる草地がある、それだけで十分に豊かな時間が流れているように感じました。

時折クルーズ船がゆっくりと航行し、甲板の上で老夫婦がお茶を飲んでいる風景があり、少し離れたところには細長いナローボートが係留され、煙突から細い煙を上げていました。ここではそれが観光用の飾りではなく、町の日常の風景に溶け込んで、水の上にも陸の上と同じように生活があるように思えます。

さらに歩くと、川は町の喧騒を完全に遠ざけた緑の回廊になり、柳が枝を垂ら

皇大神社と天岩戸神社

皇大神社・豊受大神社・天岩戸神社を総称して「元伊勢三社」と呼ばれます。皇大神社は「元伊勢内宮大神社」とも呼ばれ、三重県の伊勢神宮より54年先だって「天照皇大神」が祀られたといわれています。地元では、元伊勢さんと親しまれています。皇大神社への参道は220段の自然石の石段が続き、周囲はたくさんの神々しい古大木が立つ厳かな空間に包まれています。

皇大神社から天岩戸神社へ向かう途中には、日室ヶ岳遙拝所があります。大江山連峰の東南に位置する日室ヶ岳（岩戸山）は、ウラジロガシやアラカシなど豊かな天然林を育んできました。東斜面は禁足地であることから、群落組成上優れた状態を保持した極相林となり、貴重な植物も自生しています。この地は、夏至の日に岩戸山の頂上に太陽が沈むことから、多くの信仰者が訪れます。さらに進んだ先、宮川の溪谷には、神が天降って座した天岩戸神社があります。巨岩や奇岩が点在し、本殿裏の御座石は川の流れをせき止めたこととされ、谷底の平らな大岩の神楽石の上では、神舞を献じたといわれています。本殿は岩壁に張り付くように鎮座しており、鎖を手綱にして登るためちよっとスリリングですが、心安らぐ神秘的空間がここにあります。



そびえ立つ樹齢千年以上と伝わる麻呂子杉



岩戸山を拝む日室ヶ岳遙拝所



天岩戸神社本殿

神話が息づく「産穴」

下流の岩場には、神が湯浴みをしたと伝えられる「産盥」や「産釜」と呼ばれる産穴があり、干天にも涸れることなく水が湧き出るといふ言い伝えが残されています。



うぶたらい産盥

産釜

由良川水系 西側分水界

水系の西側分水界の田倉山（標高349m）は、兵庫県との境にあり京都府唯一の火山です。その姿はきれいな円錐形から宝山ともいわれています。今から約38～30数万年前に噴出したと推定されるスコリア（火山碎屑物、多孔質で黒色や灰色、赤褐色など暗色をしている）からできた火山碎屑丘です。ここから流れ出した玄武岩溶岩が夜久野ヶ原台地となりました。そのため、一説によると「焼け野」から「夜久野」という地名が付けられたともいわれています。国道9号沿いにある「やくの玄武岩公園」では、宝山の噴火により流出した溶岩が固まる際に形成された、六角形の見事な柱状節理を見ることができます。



由良川沿いの断層盆地 福知山市

由良川中流に位置する福知山市は、標高17m前後の盆地です。河口の日本海まで勾配が緩く、滞留湛水しやすい地形のため、過去にたびたび洪水や浸水の被害が起こっています。市内大江町河守には、由良川の過去の主要な洪水で、浸水した災害を忘れないよう、後世に残す「浸水位標」があります。少し離れた所にある家屋にも住人によって浸水位が記されていました。



京都・滋賀・福井の府県境の三国岳を源とする一級河川の由良川は、溪谷や河岸段丘が発達し、河床勾配が急な森林地帯の上流部を下ると、中流部では川幅が広がり、瀬と淵を織りなしながら福知山盆地に入ります。そして、山裾を流れる下流部は、更に勾配が緩く穏やかな流れとなり周辺の田園と美しい景観を形成しています。しかし、標高が低く緩やかな河川勾配はたびたび氾濫を引き起こし、周辺家屋の浸水被害は絶えませんでした。平成16（2004）年10月の台風23号は、由良川本川や支川で堤防決壊などの大きな被害をもたらし、増水で立ち往生した観光バスの屋根に乗客らが避難し、救出されるまでの緊迫したニュースを目にした方も多いのではないのでしょうか。

国指定文化財 雲原砂防関連施設群

雲原砂防関連施設群は、福知山市北部の山間部に位置しています。昭和初期、雲原村一帯は度重なる水害に見舞われ、農地はひどく荒廃していました。なかでも昭和9(1934)年の室戸台風は、この地域に甚大な被害を与えました。当時は、河川工事が中心のため、何度も繰り返した土砂災害に見舞われました。当時村長だった西原亀三氏は、単なる復旧工事ではなく、抜本的な治水工事を望みました。内務省技師の赤木正雄氏に施設工事計画を要請し、さらに、大蔵大臣の高橋是清氏に砂防工事の必要性を訴えました。そして工事の予算が認められた結果、土砂発生を防ぎ、水源から下流まで流域全体を考えた施設配置、流路工の線形改良など、理想的な砂防工事を目指した一体的な機能を有する砂防施設が初めて造られました。これら施設群は、今もその役割を維持しつつ、昭和10年代の我が国農村復興の様相を示す歴史的な価値を有していることから、国の指定文化財に登録されています。

歴史的価値をもつ『農村砂防』

この辺りは、村民が砂防堰堤の建設に必要な土地を無償で提供し合い、曲がった川をまっすぐにするために土地を交換するなど、農地改良・用排水路改修等の地域整備も進められました。こうした取り組みから、雲原砂防は「農村砂防」とも呼ばれています。その結果、この周辺のすべての谷に砂防堰堤が造られています。砂防工事が完了した翌年の昭和28（1953）年には、台風13号が雲原村を襲いましたが、雲原砂防のおかげで村に被害はありませんでした。

八幡山に育まれた不涸の清水てんやの水

雲原砂防関連施設の麓にある岩の間から湧き出る水は、八幡山の森に降った雨水が大地にしみ込み、長い年月をかけ浄化されたものです。この水を使い、ところてん・うどん・そばなどを作っていた家が宿屋を営み、通称「てんや」と呼ばれたことから、この清水を「てんやの水」と呼ぶようになったといわれています。交通の要所として栄えた雲原の地では、かつて多くの旅人や商人が行き交い、乾いた喉をこの清水で潤し、名物のそばや冷えたところてんに癒されました。長く愛され親しまれている清水は、今も住民たちによって大切に使われています。

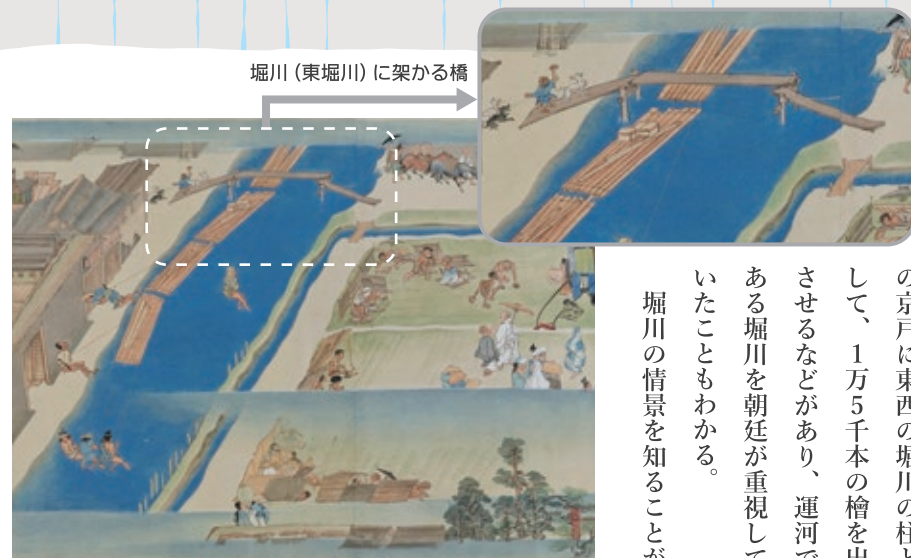


水を訪ねて

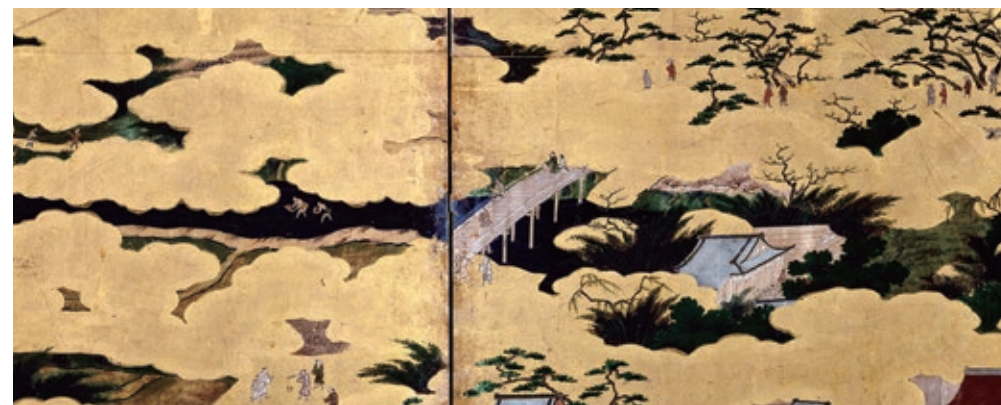
豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観《後編》

（社）近畿建設協会 水環境研究部門 顧問
京都大学防災研究所 特任教授

和田桂子

鎌倉期の堀川（東堀川）『一遍上人絵伝（模本）』【東京国立博物館所蔵】
[ColBase] (<https://colbase.nich.go.jp/>) を加工

の京戸に東西の堀川の柱として、1万5千本の檜を出させるなどがあり、運河である堀川を朝廷が重視していたこともわかる。堀川の情景を知ることが



桃山期の堀川『洛中洛外図屏風 歴博乙本 左隻』【国立歴史民俗博物館所蔵】



寛永行幸（1626年）と堀川『洛中洛外図屏風 歴博D本 左隻』【国立歴史民俗博物館所蔵】

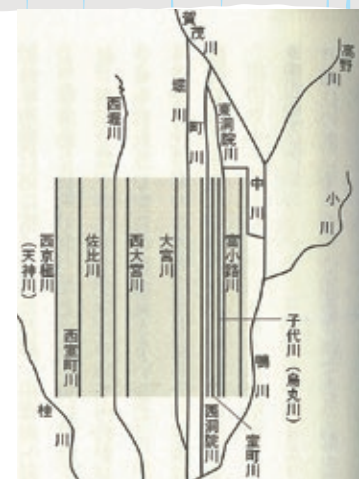
は、護岸が石垣であることや、橋に低い高覧があることなどが確認できる。これらの洛中洛外屏風では、運河を用いて荷を運ぶ様子を確認できないが、運河としての役割は桃山期においても機能していた。堀川沿いの元城じょう異中学校の発掘調査（2007年）において、堀川から幅10m、東西12m、深さ1・4mの落込が確認された。落込は、調査地を越えてさらに西へと延びており、堀川の船入か木場（材木を貯蔵する場所）の遺構とされている。遺構の上を覆う整地

記されている。同様に、『日本後記』弘仁5（814）年8月21日条にも、贖金をつかった罪で捕まえた摂津国武庫郡の日下部土方を鎖につなぎ、堀川を掘らしたことが記されており、15年間も罪人に掘らせていたことから、当時の労働力の一つとして、罪人を活用していたことがわかる。他の記述としては『続日本後記』天長10（833）年5月28日条に、左右

できる視覚資料としては、1300年頃に制作された『一遍上人絵伝』（巻第七）がある（掲載は鮮明な江戸期の模本）。絵図には、木材を筏に組んで河川を引き上げる様子が描かれており、東堀川が都へと物資を運ぶ運河であったことがわかる。河川内を詳細に見ると、水深は浅く、筏を

引いて上がるのに障害にならないようにと板橋が高い。周辺の左岸（東側）には商家とも思える民家、右岸（西側）は貧しい人々が描かれており、当時の暮らしを見ることが出来る。時代は下がるが、室町後期からの視覚資料としては、洛中洛外図屏風

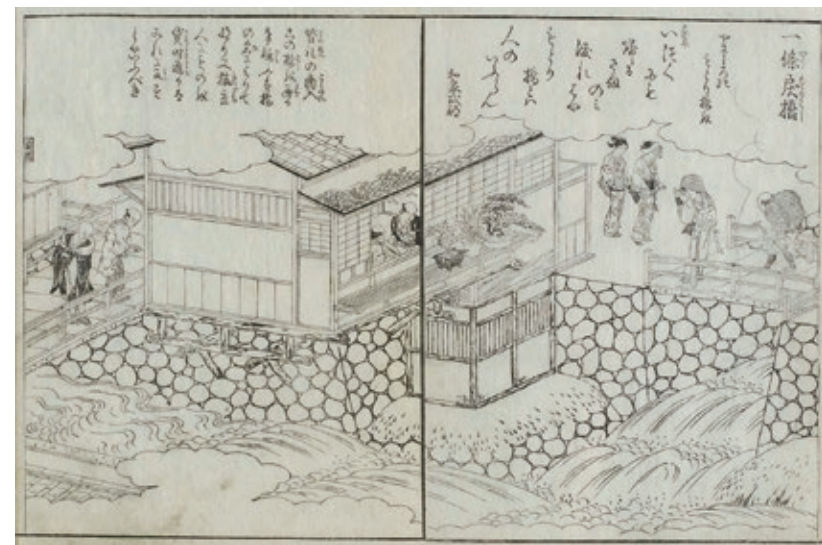
がある。小川を中心に描く『洛中洛外図屏風 歴博乙本』（桃山期）での堀川の描写は左隅の一部になるが、橋脚が長いことから橋が高いこと、河川の中で二人の男が手に楕円形の道具を持ち何かをしていることがわかる。寛永行幸（1626年）が華やかに描かれた『洛中洛外図屏風 歴博D本』（江戸前期）で

平安初期の河川図
【『水が語る京のくらし』（2010年）より】

平安京の都市計画を論じる際には、朱雀大路を中心に基盤の目で整備された道路について語られることが多い。一方で、水の流れを考慮した都市であったことは知られていない。平安遷都に際して12本もの河川が整備され、千年にわたり人々の営みを支えてきた。平安京内の河川については、平安中期に編纂された『延喜式』（九条家本・室町期写本）に記載のある右京の絵図等から作成した流路図が、岸元史明氏の著書『平安京地誌』（1974年）で示されている。河川は平安京を南北に走る大路・小路の中央に掘られ、大路の中央を流れる東洞院川や西洞院川の

川幅は1丈（約3m）、小路を流れる富小路川や烏丸川は5尺（約1・5m）であった。幅員から庭園の池への引水や、尿尿を流すために整備された水路と考えている。これらの河川は、左京に8本、右京に4本と、合計で12本が整備された。左京は東側から富小路川、東洞院川、烏丸川（子代川）、室町川、町川、西洞院川、東堀川、東大宮川。右京は西大宮川、西堀川（天神川・紙屋川）、佐比川、西室町川と、河川の名称は通り名から便宜的に付けられている場合が多い。

河川の中で運河として大内裏を両側から挟むように整備されたのが、東堀川と西堀川である。運河の構造については、平安後期の有職故実書『江家次第』（巻六）に「但堀川々面四丈、東西辺四丈、故為十二也」との記載がある。このことから堀川は川幅が四丈（約12m）の運河で、その両側に同じ四丈の道を備え、都に木材などの資材を運搬する重要な動

『婚礼の興入れこの橋を通ることを嫌うは橋の名によりてなり』と書かれている。
一条戻橋『都名所図会（巻之一）』【国際日本文化研究センター所蔵】

山卓雄氏によれば、平安期においては船岡山からの古堀川谷と、古烏丸谷の流れを水源としていた。その後、江戸期には鴨川から取水した小川と尺八池（北区大宮釈迦谷）から流れる若狭川が一条戻橋で合流し堀川となっている。この合流している様子が『都名所図会』（巻之一）（1780年）の一条戻橋に描かれている。明治に入り、琵琶湖疏水（第一疏水）の水を水源としていたが、その水源も昭和28（1953）年に失い、長

く雨水排水路であった。現在は、再度、疏水分線の水を鴨川の地下を潜らせて、紫明通の中央に整備した親水空間にポンプを使用して毎分6トンの水を流し、多くの市民に親しまれている。この堀川の歴史を文献等から見ていきたい。

六国史から堀川をみると、平安遷都を行った桓武天皇が、堀川を整備している罪人の姿を見て赦免等するように命じたことが『日本後記』の延暦18（799）年6月23日条に



石垣護岸の刻印（ホールマーク）



初代京都府知事長谷信篤他の名前が刻まれた親柱

どのイベントの開催が増えていく。平安期の様々な伝承を持ち、長く運河として活用されただけでなく、二条城の外堀として外敵を防いできた堀川。友禪流しなどに使われた時代

もあつたが、降雨時の排水機能だけとなり、暮らしと共にある水辺ではなくなった。しかし、京都市が親水空間として、2002年に着手した「堀川水辺環境整備事業」で御池通から上流の4・4kmの清流を2009年に復活させ、水辺を散策する市民や水遊びを楽しむ子供たちも多く、都市部における貴重な水辺となっている。このような、歴史ある水辺空間の多様性を大切にしなければならぬ。

夕」などの俳句を添えており、風情を感じる河川であつたこともわかる。月見橋は『都名所図会』（巻之二）にも描かれており、水辺を楽しむ人と堀川の中に湧く水「芹根水」を眺めている人々を描いている。現在、書家の松下烏石の筆による「芹根水」と彫られた石碑は、昭和57（1982）年の堀川暗渠工事に伴い旧安寧小学校沿いに移設され、当時を今に伝えてくれている。

堀川が二条城の外堀であつたことがわかる。堀川で石と言えば中立売通に架かる堀川第一橋（橋長13・55m）になる。明治6（1873）年に造られた石造円形アーチ橋のシルエツトは、何処から見ても美しい。4つの親柱の全てに「堀川第一橋」と刻まれており、東南の親柱には「京都府知事 長谷信篤／京都府参事 榎村正直／建築主任 京都府十二等出仕 中村孝行」、南西の親柱には「石工山城國愛宕郡白川村 内田徳左衛門 小川権三郎 京都堀川通下立売森下徳次郎」の文字が刻まれている。他に京都府知事 長谷信篤の氏名が刻まれている親柱には、同じ明治6年に造られた「伏水街道第四橋」



「堀川第一橋」（筆者が出演する「京の水ものがたり」撮影風景）



子供たちが水遊びを楽しむ堀川（絵葉書）

堀川は運河としての機能だけでなく、暮らしにも密接にかかわつていた。『日本三代実録』（巻十三）貞観8（866）年6月28日条には、早魃による飢饉に際して京師人が東堀川で鮎を捕つたとあり、都で暮らす人々にとって食料をもたらす大切な河川であつたことや、早魃の時にも涸れることのない豊かな水場であつたこ

とがわかる。他の関わりとしては、安永7（1778）年7月12日の御触れに、堀川の中に小屋を建て垣根をして野菜をつくる他、樹木を植えたり、出水に際して橋杭に掛かり橋が落ちたので、一条と二条の間での耕作を禁じている。また、寛政10（1798）年8月に、賀茂川、堀川、西洞院川に塵芥等を一切捨ててはいけない旨の御触れがでている。この理由として、堀川筋は先年も洪水で橋に懸り物が多く水溢れ、下辺りの町家に水入っていることが記されている。これらのことから、江戸期の人々は堀川で野菜を作り、ゴミを捨てるなどをしていた事、更には京都奉行所は公儀橋である堀川の橋の管理を重視していたことがわかる。

異なる一面になるが、堀川には暮らしとの関わりの中で生まれた伝承も多い。堀川の上流に架かる「一条戻橋」は平安期の物語を伝えてくれる特別な場所である。『都名所図会』（巻之二）には、平清盛の妻である二位殿が建礼門院徳子のお産に際して、一条戻橋の東詰に車を立てて辻占を行ったことや、文書博士の三善清行が亡くなったとき（919年）

め、事を行うときに呼び出していったことなどが伝えられている。この地は、今というパワースポットといえよう。これらの他に一条戻橋のたもととは、天正19（1591）年に豊臣秀吉の命により切腹した茶人である千利休の首が晒された場所でもあつた。

堀川は運河としての機能だけでなく、暮らしにも密接にかかわつていた。『日本三代実録』（巻十三）貞観8（866）年6月28日条には、早魃による飢饉に際して京師人が東堀川で鮎を捕つたとあり、都で暮らす人々にとって食料をもたらす大切な河川であつたことや、早魃の時にも涸れることのない豊かな水場であつたこ

に、息子の浄蔵が父に逢うために熊野から急ぎ帰洛し、父の喪送に出会つた橋の上で祈ると清行が蘇つたことから、「世人戻橋」の名がついたことなどが記されている。

他にも、源頼光の家来である渡辺綱が、美しい女子に姿を変えた鬼の腕を斬り落とした話や、陰陽師の安倍清明が橋のたもとに式神を鎮



月見橋『都名所図会（巻之二）』【国際日本文化研究センター所蔵】

「此花」、国語・国土の源泉

評論家・文化プロデューサー

河内厚郎



大阪・関西万博（令和7年4月13日～10月13日）が開催された夢洲（大阪市此花区）は、淀川の河口近くに埋め立てられた造成地で、大阪北港の一画を占める。関西テレビ『OSAKA咲かそ人・街・夢』（平成24年、上から読んでも下から読んでもOSAKASAKASO）では、造成中（埋め立ては昭和60年開始）の夢洲を、タレント・立原啓裕氏の司会、筆者のコメンテーターで紹介した。（この番組では此花区春日出から市バスに乗って大阪市中の随処へ出かけた）

夢洲の南東には咲洲、北東には舞洲という人工島があるが、夢洲の南西部に新島地区が竣工したことで、こちらが大阪市の最西端となった。大阪港の浚渫土や公共工事で生じる建設残土、ゴミの処分場の不足は長年の課題であり、大阪市は最終処分場として夢洲の埋め立てを始め、平成3年には土地

造成事業を開始した

が、新都心「テクノポート大阪」の計画はバブル崩壊で頓挫。2008年の夏季五輪を舞洲に誘致して夢洲には選手村を整備する構想も、2001年のIOC総会で北京に敗れて白紙撤回された。

軟弱な地盤の沈下や地震による液状化も懸念されて、引火すれば爆発の恐れがある濃度のガスがマンホール内で検知されたが、2002年には夢舞大橋、2009年には夢咲トンネル（道路部）が開通。夢洲と本土を結ぶのはこの2本で、通行できなくなれば来場者が島内で孤立する恐れもある。大阪・関西万博の最中、8月13日午後9時



大阪・関西万博が開催された夢洲【写真提供:PIXTA】

半頃、大阪メトロ中央線で車両に電気を供給するレールが停電。会場周辺には最大3・8万人が滞留し、1・1万人が会場内で一夜を明かしたが、非常時を愉しむ客も見られた。

2014年、橋下徹大阪市長（当

時）はカジノを含む統合型リゾート（IR）の候補地として夢洲の島内北部への誘致を推進する方針を示し、2016年には博覧会の会場候補地を夢洲に一本化すると発表。IRとの一体的開発が行われることになって、2018年11月、夢洲が2025年国際博覧会の開催地に決定した。

2025年1月には大阪メトロが中央線を延伸。新設した駅の近くには総工費1千億円超のタワービルを建設し、令和6年の開業をめざすと発表した。2020年には新型コロナウイルスの感染拡大でIRの誘致が遅れる見通しとなり、タワービル全面開業の予定を2020年代後半に遅らせ、MGMLリゾート・インターナショナルとオリックスの連合体をIR事業者を選び、液状化対策などに市が約790億を負担することになった。2025年1月にはコスモスクエ

ア駅よりメトロを延伸させ、此花区で初の地下鉄駅を設置、大阪メトロ中央線「夢洲」駅が開業した。

此花のルーツ

「およそ日本一の境地、西は青き海を満々と湛え、日本の地は言うに及ばず、唐土高麗南蛮の船が盛んに出入りし、五畿七道の産物を集めて売買利潤、富貴の湊なり」（小説『どら蔵』朝井まかて・著）

四天王寺の西門から望む、明石海峡に沈む夕日は信仰の対象とされてきたが（夕陽丘という地名はその名残）、海はどんな埋め立てられて、今では大阪市の西の最先端、夢洲の大屋根リングから眺める夕日が新しい名所になった。あべのハルカス58階の展望台にある



王仁博士の歌碑（御幸森天神宮）

旧家に所蔵されていると判り、日本で唯一（であろう）和文ハンゲル併記の歌碑が御幸森天神宮（大阪市生野区桃谷）に建てられた。御幸森天神宮は浪速に都（高津宮）を置いて仁徳天皇が訪れたという鷹狩の森で、古代には猪飼野・

ツインタワー（排気口）の隙間には、或る期間夕陽が通るように設計されている。

わが国に文字を伝えたと言われる王仁博士の古歌「難波津に 咲くやこの花 冬ごもり 今は春べと 咲くやこの花」は、幼児が習字の手習いに学ぶ和歌として広まり、此花という名のルーツになった。「この花」とは梅の花をさす。（「咲くやこの花賞」は大阪市が新進の人材に贈る賞）

難波津の歌は、応神天皇の死後、大雀命と菟道稚郎子が皇位を譲り合い、大雀命が跡を継いで仁徳天皇となった折、治世の繁栄を願って王仁が詠んだ歌とされる。江戸時代、この歌を対馬の通訳官がハンゲルに翻訳して朝鮮通信使に贈呈。その墨書が兵庫県たつの市の



弥生時代後期～古墳時代前期の大阪湾（破線は現在の海岸線と河川）

猪飼津（猪甘野・猪甘津）と呼ばれる渡来人の集落があった。現在は日本最大のコリアタウンとして観光名所になっている。

難波八十嶋と、八十島祭

上代の昔、和泉台地から大阪湾へ突き出した岬（現在の上町台地）の周りには、淀や大和の河川が運んだ土砂が大小のデルタを形づくり難波八十嶋と呼ばれた。都島・中之島・堂島・福島・松島・江之子島・出来島・四貫島・姫島・加島・御幣

島：「島」と名の付く大阪市西部から兵庫県尼崎にかけての地名群はその名残りである。

上町の台の上に宮居した支配者の目に、蛸の足のように難波潟に浮かぶ八十嶋（日本の国土を示す古称）は、海中から陸地が湧き出したように映ったであろう。日本神話によれば、葦のように萌え出た神こそ下界に現れた最初の神様とされる。葦が一面に生い茂る八十嶋の姿に国土創生のモデルを見るなら、古事記という葦原中国（高天原と黄泉の国の間にあるとされる世界）とは大阪のことだったと想像出来る。

大阪湾岸における最古の祭として文献に登場する八十島祭は、天皇の即位する大嘗祭の翌年、新しい天皇が神々の力を寄りつける（海から生命力を得る）ため、宮中に仕える女官が海に向かって祈る神事であった。八十島祭が行われた難波祝津宮の伝承地としては、尼崎市扶桑町あたり（阪神尼崎駅近く）に難波祝津宮を始まりとする難波八幡神社がかつてあり、現在は東難波町に建立し直されたと伝えられている。また、行基が聖武天皇の勅命により摂津国内に数社の熊野神社を再興し、その第一の社と伝えられる難波熊野神社（尼崎市西難波町）も伝承地とされ、鳥居を



石碑「難波の梅」（難波熊野神社）

くぐると右手に石碑「祝津宮古跡」がある。碑の横には「難波の梅」と称する古木があった。3月第1日曜日には梅祭りが行われ、佐藤栄作元首相の書になる石碑もある。

八十島祭は、難波津の海岸に壇を設け、神琴の音に合わせて天皇の衣の入った筥の蓋を開け、衣を振り褌をし、祭物を海に投入することで大八洲の霊を天皇に付着させ、国土（日本列島の島々）の統治者としての宗教的資格を付与する儀式であった。8世紀以前は天皇みずから海岸に赴いていたらしく、船の舳先に立つ天皇が風に吹かれる様を想像するに映画『タイタニック』の名場面が連想される。

天皇が水際で大八洲の霊を体内に摂り入れていた史実は、難波の海岸が霊的な「まれびと（稀人・客人）」を招きよせる場であったことを物語る。奈良の大仏造営を発願した聖武太上天皇の難波行幸は756年2～4月、その間の3月1日に難波の堀江を訪れているのは、前年10月の発病で衰えた生命力を奮い起こそうと褌や祭をするためであった。745年8～9月の難波



前期難波宮（難波長柄豊碇宮）復元模型【大阪市歴史博物館】

しく、現・東淀川区大桐に大隅神社がある）、天武朝でも副都の地位を保ち、聖武天皇が一時は都を遷した（後期難波宮）地は霊的な地でありつけ、仁徳天皇が開削したと伝わる難波の堀江は天皇の生命力を奮い起こす聖地であった。

行幸も天皇が危篤と囁かれた故の行幸であり、事実、天皇は奇跡的に命を取り留めたのである。756年の行幸はその折の霊妙な経験を思い起こして行われたであろうと栄原永遠男氏（大阪市立歴史博物館名誉館長）は推測している。もともと古く上町台地には孝徳朝の都（難波長柄豊碇宮）や仁徳朝の都（難波高津宮）が置かれ（さらに以前、応神朝の離宮だった難波大隅宮は淀川の大隅島にあったら

わる難波八十島祭は平安初期から鎌倉時代まで行われたことが文献から判っており（平清盛の正室・時子は二条天皇即位の折、祭使の大役を務めた）、海に臨む難波の地に宮都が置かれた時代から存在した可能性が示唆されている（そのときに祀られた生島神と足島神の両神を現在は生國魂神社が祀っている）。国土の生成を意味する「生國魂」の社は島々を見おろす上町の高台にあった（豊臣時代以前は今の大阪城の位置）。

国土と国語の生成

海は「生み」であり「産み」でもある。八十嶋の向こうには、国生み神話のふるさと、淡路島が遠望できる。―神々が島々を産んで国をつくり、国を産み終えた伊弉諾が淡路の幽宮に行く―淡路島の向こう側を死後の世界と見なすのは、上町台地から大阪湾を俯瞰することで得た発想であろう。そんな古代人の世界観が、四天王寺の西門から明石海峡へ沈む夕日を見、西方浄土に想いを馳せる「日想観」へと転化していった。

古事記の表記「くらげなすただよえる」のように、海に漂う渾沌としたクニが、言葉の呪力によって、一つの意志をもった国家（国語）へと統合されていく。姫島（西淀川区）で乙女の死に悲嘆して詠んだという「妹が名は 千代に流れむ 姫島の 小松が末に 苔むすまでに」（河辺宮人）を日本国歌『君が代』（君が代は 千代に八千代に さざれ石の 巖となりて 苔のむすまで）の元歌とみなす説もある。

平成31年に旭堂小南陵氏がオ



姫島神社に建つ歌碑

ブンした講談の寄席「此花千鳥亭」（最寄り・阪神なんば線「千鳥橋」駅）は此花区梅香にある。ここからどんな物語が紡がれていくだろうか。

阪神電車なんば線には「伝法」という駅がある。淀川河口の港町、伝法（此花区）という地名の由来には諸説あり、①6世紀の欽明天皇の時代、仏教の経典が初めて着岸。②7世紀に天竺（インド）の法道仙人が訪れて仏法を伝えた（六甲山地の摩耶山天上寺は法道仙人が開いた古刹で、釈迦の母・摩耶夫人を祭ることから名づけられた）。③12世紀、高野山に伝法院が創建された際、資材が西国から着岸。④かつて「伝法寺」という寺が所在、等々。現代の大阪湾（茅渚の海）をあら



此花千鳥亭



旭堂小南陵氏

館という文化人類学的世界な殿堂が生まれた。大阪日本民芸館も、のちに中之島へ移転する国立国際美術館も、70年万博の遺産（レガシー）である。（70年万博のシンボル「太陽の塔」は、存続を求める署名活動で保存が決まった）

大阪・関西万博の大屋根リング（藤本壮介氏・設計）は一周約2km、高さは最大約20m。世界最大の木造

建築物としてギネス世界記録に認定された。「多様な世界が一つに繋がることができる」という理念を表現し、大きな輪の中に世界各国のパビリオンが並ぶ、大屋根リングを設計した藤本壮介氏は毎日芸術賞に輝いたが、北東部分の約200mを除き2027年8月までに撤去されることになり、解体した木材は能登半島地震で被災した石川県珠洲市で復興住宅の建築資材として活用されることになった。

夢洲で整備が進む、国内初のカジノを含む統合型リゾート（IR）は、ホテルや劇場、国際会議場、茶華道を体験できるスタジアムなどを備える予定で、ギャンブル依存症への懸念が指摘されることから大阪依存症対策センター（仮称）を設置する方針だ。

「オランダ堰堤および周辺の環境を守る会」は、草津川上流の大津市桐生にあり、明治に作られた土木遺産であるオランダ堰堤および周辺の環境を守り、水辺に親しんでいた



オランダ堰堤で水辺に親しむ人々

ける水辺空間を守るため、清掃、伐採および河道整備（浚渫）を行っています。私たちの活動の場であるオランダ堰堤や会発足の経緯、活動内容等をご紹介します。

1 草津川のオランダ堰堤

草津川は、近江南アルプスの一部である竜王山及び鶏冠山を源流に、大津市桐生から草津市を経て、琵琶湖に流入する河川です。

滋賀県南部の山林では、古代、飛鳥時代の藤原京及び奈良時代の平城京の造営のために大量の樹木が伐採されました。その後アカマツ等の樹木が繁殖しましたが、江戸時代に入り、田んぼの肥料や燃料、夜間の灯明に根こそぎ利用されたため、雑木もなくなり、そのうえ地質が花崗岩のため、風化して崩壊し、白い砂状の「マサ（真砂）」に覆われた山になりました。遠方から見るとアルプスの雪山のように見え、このことから「近江南アルプス」と言われるようになったとされています。

また、風化が進んだ山から流れ出

る河川が大量の砂を下流に運び、地元に災害をもたらしました。このため、桐生地区の住民は、土砂で堤防を高く積み、積み重ねるうちに家屋より堤防高が高くなり、草津川はいわゆる「天井川」になってしまいました。

江戸時代中期には、山はさらに荒廃し、雨が降るたびに洪水となり、住民を苦しめました。



デ・レーケ像と浚渫されたオランダ堰堤

明治に入り、政府が淀川水系の改修工事を行いました。その一環として実施された草津川の改修工事においては、オランダから招かれた土木技師のデ・レーケ氏から指導を受けた、日本人技術者田辺義三郎氏が設計監督し、日本では初めてといわれる砂防ダムが明治22（1889）年に完成しました。この砂防ダムにあわせて、その後営林署が植栽工事を行った結果、現在の緑の山林に復活しました。大津市桐生は古くから金箔や銀箔を押した紙（箔製紙）の産地ですが、この植栽工事に地元桐生地区の

住民が多数駆り出されたことから、植栽工事も地元の振興産業になったようです。

2 オランダ堰堤のその後と会設立

砂防ダムは、蓄積された土砂を撤去しなければ、満杯になった土砂は河川に流れ込みます。草津川が、滋賀県管理になってからも幾度となく浚渫作業が繰り返され、オランダ堰

堤の下流には副堰堤が、上流にもいくつかの砂防ダムが築造されました。その後、平成2（1990）年から6年にかけて滋賀県が大規模な浚渫工事を行いました。その後20数年間、手つかずの状態で放置されていました。

平成29（2017）年6月に滋賀県河川愛護活動事業の「川ざらえ」として、地元の桐生自治会で川ざらいや雑木伐採等に着手することになりました。オランダ堰堤周辺から下流約300m間の土砂撤去と河川敷の雑木の伐採、草刈りを行い、約1年をかけ20数年前の状態に復元しました。「オランダ堰堤および周辺の環境を守る会」は、平成30（2018）年4月に、この復元された河川を後世に引き継ぐため、当時の自治会役員を中心に環境整備をさらに継続していくことを目的として設立されたボランティア団体です。

3 私たちの活動内容

滋賀県や大津市のご協力のもと河川愛護活動事業として取り組んでいます。オランダ堰堤を中心に周辺地域の清掃活動、草刈作業、枯木・倒木の撤去・処分、河道の川ざらい事

業を行うとともに、河川パトロールを行い河川や河川敷の利用者に対して啓発活動も行っています。

特に近年は、春と秋のハイキングや登山、7月から8月にかけての夏休みに、多数のご家族や中高年齢のグループが来所され、キャンプ、バーベキュー、川遊びを楽しんでおられます。「自分たちで出したゴミは、自分たちで持ち帰るよう」に、お願いしています。



「ミツバチ花いっぱいプロジェクト」の様子

持っています。なかなか思うように帰っていただけません。このため、5月から10月にかけて毎週日曜日17時から環境清掃を行い、残されたゴミの回収に取り組んでいます。

4 「ミツバチ花いっぱいプロジェクト」

令和元（2019）年からは平和堂財団様の環境保全活動助成金「夏原グラント」を頂くことができ、「ミツバチ花いっぱいプロジェクト」に取り組むことができました。

ハナモノやレンギョウ等の花苗・花木を植樹・移植し、ミツバチを飼育することにより、より一層癒しと

安らぎの空間づくりに取り組みました。ミツバチの巣箱の設置、ミツバチの生態の勉強会も行いました。

私たちの活動に近隣の皆様方も参加していただき、新しい仲間が増えました。更には地元のシニアクラブやボーイスカウトの方にも参加していただいています。

5 「古地図」の発見

ところで、令和7（2025）年7月に地元の住居から縦横約5メートルの「古地図」が発見されました。

この古地図を大津歴史博物館の学芸員の方に鑑定していただいたところ明治6（1873）年に地租改正が



発見された古地図

施行された時に作成されたもので、このような大きな古地図は極めて珍しく、初めて確認されたものであることがわかりました。明治6年ですからもちろんオランダ堰堤は作られておらず、山林は全て土色のはげやまの表示がされていました。このため、地域の土砂災害や天井川の歴史を知ることができ、大変貴重な資料の発見となりました。昨年は地元住民だけでなく青山小学校や歴史同好会の方にも見ていただきました。今後は、この古地図とオランダ堰堤の環境を結びつけ、郷土の理解と歴史を後世の住民に伝えていきたいと考えています。

水都大阪の歴史と未来(23)

水都の会(水都大阪を考える会) 代表 藤井 薫

高さ13mもの鉄パイプが突然、地中から新御堂筋の路上に出現し、梅田の街ゆく人々を驚かせた令和8年の春。



【提供:大阪市建設局】

以前、本稿でもご紹介した大阪の地下で働く水の力で浮き上がった支柱とのことですが、目の前で見た人は大阪の地中に潜む恐ろしい水の魔物の仕業と感じたことでしょうか。

2025年大阪・関西万博も無事終了。内国博(第5回内国勸業博覧会)、70年万博、25年万博と「万博と水害」について紹介してきた本稿ですが「ここで忘れちゃいけないのが」90年の「国際花と緑の博覧会(花博)」です。

花ずきんちゃん
【提供:国際花と緑の博覧会記念協会】

横浜での「国際園芸博覧会」の開催を来年に控え、今号では90年花博の知られざる謎に迫っていきます。

なお「水都大阪と幻の大阪大国技館」として連載してきた本稿ですが、今号からは水都大阪に関連した話題を広く取り上げるため「水都大阪の歴史と未来」と表題を変えていただきます。

印象の薄い「花博」

1990年に鶴見緑地で開催された花博は、約140haの敷地に世界80カ国から出展のあったアジア初の大国際園芸博覧会でした。また特別

寝屋川の洪水を大川へ流すバイパス機能を持たせたことです。(寝屋川が氾濫しそうになると城北川の両端の水門を開放し大川に流し、最後は毛馬排水機場より淀川に放流)

前代未聞の5層構造「花博通」

ここで「花博通」が存在感が希薄な平面道路だったからこそ日本の道路の中で最も異彩を放つ路線となつたと言った驚かれるでしょうか？

実は、花博に伴い整備された主要アクセス道路「花博通(都市計画道路・都島茨田線)」は、単なる平面道路のようですが、現在、その地下には共同溝、地下鉄、高速道路、そして巨大な地下河川が重なり合うという、世界的にも極めて珍しい5層構造の整備が進められているからです。

花博通に集中した謎

でも一つの道路にライフライン

花博記念公園鶴見緑地と花博通
【出典:Google Earthに加工】

「花博通」下の施設

- 浅層地下
 - ①地下鉄長堀鶴見緑地線
 - ②共同溝(電話・電気・ガス・上下水道等のインフラ)
- 中・深層地下(花博通及び大深度地下)
 - ③阪神高速淀川左岸線延伸部(建設中)
 - ④寝屋川北部地下河川(雨水貯留・放流施設(建設中))

博ながら入場者数2,300万人を超え、一般博の愛知万博を上回り、2,500万人台半ばだった25年万博とも遜色ない規模の万博でした。

「でも、新御堂や北急、中央環状、

大阪3大水門等が一斉に整備された70年万博や夢洲への地下鉄や阪神高速の延伸、淀川大堰開門などが記憶に新しい25年万博と比べ、花博で街が変わった印象は薄いけど、どうなん？」と思われたかもしれません。

確かに地下鉄鶴見緑地線は開通しましたが、道路は地上を走る「花博通」だけで橋桁が立ち並ぶ高速道路や巨大な水門など目に見える大規模なインフラ整備は見当たりません。

やはり花と緑がテーマでは地味かと思いきや、実はこの花博こそ治水など後の大阪のインフラ整備に大きな影響を与えたプロジェクトでした。

寝屋川流域の「内水域」

古代には河内湖だった花博会場周辺の大阪東部地域は、海抜の低さで慢性的な浸水被害に悩まされてきま

(上下水道等の共同溝)、移動手段(地下鉄・高速道路)、更に防災施設(地下河川)まで、何故そんなに多く詰め込むことになったのでしょうか？

地下鉄、上下水道等は花博開催時に整備されました。一方、それ以外の高速道路や地下河川は主に開催後に整備されていますが、恐らく開催時点から将来構想として導入が想定されていたものと思われるます。

全てのインフラを同一ルート(花博通)に集中させたのは、もちろん用地買収が不要で最も効率的だからなのは言うまでもありませんが、未来の街づくりを提案する万博だからこそ可能となった、インフラの一点集中モデルだとも考えられます。

何よりも花博通を将来、地下利用が容易となるよう平面道路としたのは、万博に相応しい将来を見据えた素晴らしい判断だったといえます。

そしてこの整備された地下河川や

した。特に寝屋川流域は、周囲を山と川に囲まれた「お皿の底」のような低い地形です。一度浸水すると自然には川から雨が排水できない「内水域」が4分の3を占めています。

このため、雨は下水道を通じ、周辺河川にポンプで強制排水する仕組みとなっています。しかし、排水した雨水の出口は京橋口しかなく、都市化の進展により遊水機能が低下し、「内水域」が度々発生しました。

雨水対策への花博の影響

花博会場の中心にある「大池」は、会場に降る雨水の「遊水池」です。実は70年万博では、雨が降ると会場の方々に水溜まりができ、通行に支障をきたしました。この教訓から花博では水溜まりが極力できないよう会場内及びその周辺に雨水の一時貯留・排水システムが完備されました。

さらに花博開催中の90年5月、大阪府や流域11市で各地の公園や学校等の公共施設に雨水貯留施設を設置する「寝屋川流域総合治水対策協議会」が設立されました。花博という国家プロジェクトを端緒として協調して雨水対策を進めようという機運が生まれたものと思われます。

日本初の大深度地下河川

降った雨が自然に地上の川から排水できない「内水域」が4分の3を占めている寝屋川流域では、地下にバイパスルートを設ける手法が考え出されました。最下層にある「寝屋川北部地下河川」を始めとした地下河川や下水道のなにわ大放水路です。

一方、花博通の西の大川側は既存建築物の存在で道路の用地買収が進まず、事業が伸展しませんでした。このため、河川としては全国で初めて「大深度地下利用法」を適用。用地買収の必要の無い大深度地下の地表下約70mに地下河川として直径約10mのトンネルが掘られています。

驚異の「立坑」と全体計画

大雨で寝屋川や古川等の水位が危険水域に達すると、川沿いの巨大な縦穴「立坑」から、雨水を一気に地下へと流します。そのひとつ城北立坑は直径30m以上、深さ約100m(通天閣と同じ)もあります。

雨水は、当面、花博通の地下深くにある「貯留トンネル(トンネル自



寝屋川洪水時における城北川のバイパス機能

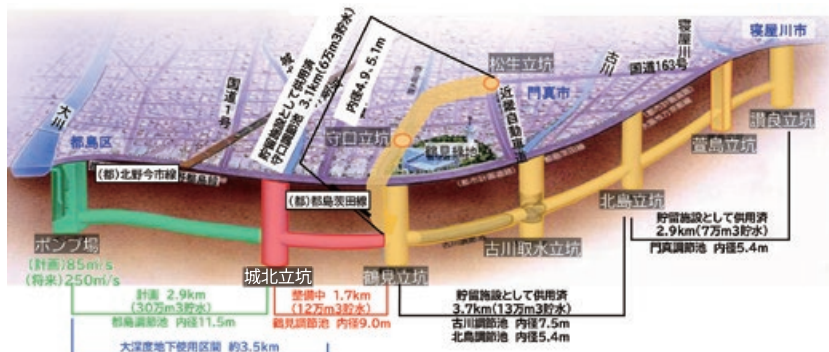
城北川と大川口水門

巨大な水門などインフラが見当たらないと言いましたが、実は花博開催にあわせて整備された水門が存在します。城北川の大川口水門です。

「でも、印象の薄い水門やな」と思われたのも当然。上部に巨大なゲートがそびえる通常のローラーゲートと異なり、横転式と呼ばれるこの水門は、開放時には水面に平行にゲートが格納され目立ちません。閉鎖時には斜めに動き、最後は直立するという変わった動きで水路を閉鎖する非常にマイナーなゲートです。

大川口水門の整備により、寝屋川口水門と連動して、淀川の綺麗な水を取り入れ、汚濁が激しい城北川の水の浄化が図られました。

さらに、治水上重要なのが同じ90年に城北運河を城北川に昇格させ、



寝屋川北部地下河川断面図【提供:大阪府寝屋川水系改修公署】

体に一時的に雨水を貯留」に溜められ、浸水被害を軽減します。全区間完成後は自然流下やポンプにより下流に流され、トンネル末端の大川近くの巨大な「排水ポンプ場」により地下の雨水を汲み上げ、大川へ放流するという壮大な計画です。

地中奥深くにそんな凄い水の流れがあるとは「水圧で飛び出た鉄パイプもびっくり！」ですがひょっとしてこのパイプ君。私達人間にもっと地中の水に注意するよう教えるに来てくれたのでしょうか？

流域治水探訪

近畿水管理・国土保全研究会 会員 梅田 和男

農業関係の「流域治水」の取り組み

「流域治水」は、国・地方自治体だけでなく、民間企業、農業関係者、地域住民の方々など、流域内のあらゆる関係者の協働による取り組みです。流域治水に参加している各関係者はどのような取り組みを実施しているのか、現場での事例も含めて紹介していきます。

最初は農業関係です。農業は作物を生産するだけでなく、農地や農業水利施設により良好な環境創出や自然災害軽減などにも寄与していると言われています。

農林水産省近畿農政局
地方参事官
宮本 博文さん

農業の様々な機能と、農地や農業水利施設を活用した流域治水がどのように行われているのか、農林水産省近畿農政局地方参事官の宮本博文様にお話を伺いました。

1 農業・農村整備と多面的機能の発揮

農業・農村整備の目的や実施状況について教えてください。

農業・農村整備は「農業の持続的発展」、「農村振興」、「食料安定供給」及び「多面的機能の発揮」の実現を図るもので、水田・畑の整備、農業用ダム・頭首工・排水機場・用排水路等、農道・中山間地域の整備や農村環境の改善のほか、災害復旧や施設の維持管理などを実施しています。



用排水路の拡幅 【出典：近畿農政局】

■ため池の活用

大雨が予想される際に予めため池の水位を下げることで、降雨をため池に貯留し、下流の浸水被害を軽減します。ため池の水位を下げるためには、洪水吐きに切り欠きを設置などの施設整備が必要です。この取り組みは農業用水の貯留に影響の無い範囲で実施されています。

■水田の活用（田んぼダム）

水田に降った雨を一時的に貯留させて、時間をかけてゆっくり排水す

田んぼダムのポイント

Point 1

『田んぼダム』は「取り組み」であり、ダムや遊水地のような「施設」ではありません。

Point 2

水田に降った雨を貯留する取り組みであり排水路等から水田に水を引き入れるものではありません。

Point 3

作物の生産に支障が出ない範囲で、農業者の協力を得て実施する取り組みです。

「多面的機能の発揮」とはどういうものでしょうか。

農業・農村は食料生産の場としての役割だけでなく、田畑を通して地

近畿農政局では現在、東近江、亀岡中部、東条川二期、和歌山平野の4地区で国営事業を実施しています。整備した施設は通常、府県や土地改良区等が管理しますが、加古川水系、十津川紀の川の2地区では整備した農業用ダム、頭首工等を国が管理しています。

2 農業分野の流域治水対策

農業分野ではどのような流域治水の取り組みがされていますか。



農業・農村の有する多面的機能 【出典：農林水産省HP】

下水を涵養し健全な水循環を形成する働きがあるほか、地域の自然環境や景観を保全し、地域文化も伝承しています。さらに畔に囲まれた田や土壌の隙間が大きい畑には雨水を一時的に貯留して浸水被害を軽減し、継続的に耕作された田畑は耕作放棄地に比べ土砂の流出や土砂崩れを防止する働きがあります。

農業・農村の有するこれらの機能を「多面的機能」と呼んでいます。

る取り組みです。水田に通常より多くの水を貯留するためには、水田の水を排水する箇所に流出調整板と呼ばれる排水調整の板などを設置する必要があります。

3 ため池の概要と取り組み状況

ため池はどれくらい存在し、誰が所有・管理しているのですか。

全国には農業用ため池は約15万箇所あり、西日本を中心に分布しています。県別の箇所数（令和5年9月時点）では、兵庫県が全国1位で21,752箇所あります。近畿の府県では、和歌山県9位4,723箇所、奈良県10位4,228箇所、大阪府13位3,600箇所などとなっています。

ため池の約半分は集落・個人が所有・管理しています。残り半分は地方自治体の所有が多く、管理は地方自治体のほか、土地改良区や水利組合等も行っています。

ため池を活用するうえでの課題は何でしょうか。

下流の治水対策としてため池の水位を事前に下げておくことは、ため池の決壊や被災を防ぐためにも有効な手段となります。ただ、洪水吐に



ため池栓 【出典：近畿農政局】

4 田んぼダムの取り組みと課題

田んぼダムはどれくらい実施されていますか。

田んぼダムの実施状況は地域によってかなりバラツキがあります。令和6年度時点で近畿ブロックでは兵庫県の取組面積が最も大きく全国9位で、滋賀県、奈良県でも取り組まれています。課題としては、自身

農地や農業水利施設を活用して流域治水対策を実施していますが、大きく分けて4つの手法があります。

■農業用ダムの活用

大雨が予想される際に予め貯水位を下げることで、洪水をダムに貯留し、下流の浸水被害を軽減します。

この取り組みは、河川管理者やダム管理者などが締結する治水協定と呼ばれる事前の取り決めに基づいて実施しています。

近畿ブロックでこの協定を締結した農業用ダムは27基あります。



野洲川ダム(滋賀県甲賀市) 【出典：近畿農政局】

■農業水利施設の活用

農業用の用排水路や排水機場・樋門等は農地湛水だけでなく、集落や住宅地等の浸水被害を防止・軽減しています。国営事業の総合農地防災事業では農業用の用排水路を拡幅し、バイパス水路の整備、排水機場の更新等を実施しています。

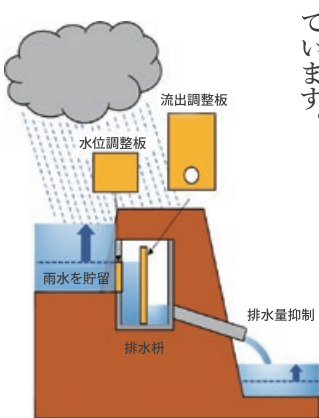
現在、和歌山平野地区において、この事業を実施しており、既に完成した区間においては、湛水被害防止が図られたところもあります。

の田んぼのためではなく、下流の方々のために実施する取り組みとなるため、メリット感が無いとの声も聞いています。

田んぼに水を貯めることによる作物への影響等はありませんか。

田んぼダムは、農家の理解と協力を得て、各農家により作物の被害が出ないように実施されています。

田んぼには多面的な機能があることから、農家と関係地域が共同で行う畔の維持・補修などの取り組みに対して支援措置を設けています。さらに、田んぼダムを実施する場合には、加算措置を設けて支援しています。



田んぼダム 【出典：近畿農政局】

農業分野における流域治水の取り組みは、農家の理解と協力を得て実施されていること、農業・農村には地域に恩恵をもたらしている多面的機能があることを知っていただけるとありがたいです。